

氷見Collegareマルシェイベント

「氷見ってステキだ」を味覚から感じよう



池森夢奈

富山県立氷見高等学校

氷見Collegareマルシェイベント

「氷見ってステキだ」を味覚から感じよう

池森夢奈



活動概要

「氷見ってステキだ」を味覚から感じてもらう、氷見市への関心度・認知度を高めたいという思いから、1日限定の「Collegare」マルシェを開催した。イベント開催に向け、会場スペースの確保と整備、出店依頼の電話やイベント要項の作成・配布、イベント会場の周辺住民の方々への挨拶回り、駐車場利用のお願い等を行った。また、高校生をメインターゲットとして、校内や市内、氷見駅でのポスター掲示やチラシの配布、SNS等を活用しての広報活動を行った。

当日は、会場を「コミュニティ・スペースひみりべ。」さん横の空き地をお借りし、合計4店舗出店した。氷見市内からは3店舗、手作りパン屋さんの「考えるパンKOPPE」さん、テイクアウトカレーの「ひみつカレー」さん、シフォンケーキの「Garuda」さんから協力していただき、市外からも1店舗、フルーツサンド専門店の「ChouChou」さんに来ていただいた。氷見市内外から延べ200人を超えるたくさんの方々立ち寄っていただくことができた。また、立ち寄っていただいた方々にアンケート調査を実施し、氷見市への関心度、認知度に関する現状と課題を分析した。

なぜこの実践活動に取り組みましたか？

「氷見って魅力が無いね。」

私たちが高校生活を過ごしていく中で、何度も耳にした言葉だ。そして、この言葉に遭遇するたびに私たちは言葉では言い表せない寂しさと、高校生活の中では氷見市の魅力に気づけていない現状や関心の薄さがあるように感じていた。氷見市には、地域住民の温かく優しいコミュニティや美しい海と立山連峰が望める広大な自然、そして自然と温かいコミュニティに育まれた美味しい食がある。身近にたくさん魅力があるのに、それを知らないまま過ごしていくのは、私たち高校生にとっても氷見市にとっても寂しく悲しい。高校卒業後の進路を考えれば、氷見市の魅力を知らないまま、氷見市を出ていってしまう人もいる。その前に、氷見市の魅力を伝えたいと強く思った。そこで、「氷見ってステキだ」へのきっかけを作り、氷見市への関心度を高めたいという思いから、イベントを企画した。また、さまざまな魅力の中でも今回は氷見市の「おいしい」に焦点を当て、味覚から氷見市への関心をもってもらいたい、そして氷見市と繋がってもらいたいという思いで、イタリア語で「つながり」という意味である「Collegare」をマルシェの名前とした。

課題を解決するためにどのような仮説を立てましたか？

イベントを開催すると人が集まり、知ってもらうことができ、そこから氷見市の魅力を自分たちで発信できるのではないかと、という仮説を立て、それを実行することにした。まず、場所、時間の選定に取り掛かった。高校生をターゲットにしていたため、氷見高校や氷見駅から徒歩圏内で行ける場所がいいのではないかと考えた。時間帯も高校生の下校時刻に合わせ、平日の16:00~19:00とし、氷見高校から氷見駅に向かう途中に場所を設定した。また、駅から徒歩5分という駅近くに場所を設定することで、市外の高校に通う生徒も立ち寄りやすいようにした。次に、放課後に高校生が立ち寄りやすいような場所にするためには、食に関するイベントを開催するのではないか考えた。小腹が空く時間帯の夕方であることも考慮し、出店先の店舗はパンやカレー等、高校生に好かれて食べやすいものに決めた。さらに、富山県内で若者に人気のサンドイッチ屋さんに氷見市のリンゴを使った商品を出品の考案をお願いし、快諾いただいた。氷見市でリンゴを栽培していることを知ってもらえ、美味しいということも分かってもらえるのではないかと考えたからだ。

また、現状の分析をし、今後につなげていきたいと考えた。当日、来場者にアンケート調査を行い、氷見への関心度・認知度や氷見に対する今の思いなどを調査した。

実践活動では(自身の役割の中で)どのようなことを意識しましたか？またどんな工夫をしましたか？

私は実践活動を行っていく中で、「物怖じせずに進むこと」を意識していた。出店依頼の電話や地域住民の方々や出店店舗の方々への挨拶回り、イベント要項の作成など、人生で初めての経験の連続だった。私には臆病な面があり、初めてのことや慣れないことをして失敗を招くことをひどく恐れ、「失敗を招いてしまうのなら最初からやらない」という選択をすることが多かった。しかし今回のイベントでは、自分自身が主催者の1人であり、イベントに向けての準備をメンバーと一緒に自分たちで進めていく必要があるということを実感して「物怖じせずに進むこと」が出来たと思った。今までの臆病な自分とは違う、1歩足を踏み出して殻を破った怖がらない自分に出会うことが出来た。日々活動を進めていく度に、怖い、失敗したらどうしようなどと悩み続けることがなくなっていき、イベント当日やその前後の日では、堂々と意見を言ったり、アンケートを呼びかけたり、ハキハキと話すことができて嬉しかった。

私が自分の殻を破って前に進むことができたのは、共に活動してきたメンバーと協力者の方々がいからである。人との繋がり・協力・話し合いが常となるこの活動で、私は「話し合うこと」「少数派の意見を尊重すること」を工夫した。

私は、実践活動をより実りのあるものとするためには「話し合うこと」が大切であると感じた。私たちは活動する際には必ず目的を再確認し、目的を達成するための最適かつ効率的な行動とは何かを常に話し合った。話し合うことを疎かにしてしまうと、途中で目的があやふやになったり、行動に移す時に迷いが生じたりする。それを防ぐためにも、たくさん話し合うように工夫した。また、話し合いの中では必ず「少数派の意見を尊重すること」を工夫した。意見が別れることで、自分の意見をもう一度振り返ることができる。そして、意見が別れることは話し合いを豊かにするものだと感じた。





(自身の役割の中で)実践活動を通して考えたこと、学んだことは何ですか？

当日のイベントで、当初100人程度と考えていたが、氷見市内外から200人を超える集客があり、高校生以外にも近隣住民の方も来てくださるという嬉しい誤算があった。そして、この活動を通し、私たち自身が発信するつもりであった氷見市の魅力を、来てくれた人達自身が発信してくれることに気づくことができた。一人の人間ができることは本当にわずかであるが、「氷見っていいね」を持ったたくさんの方が集まったことで、持続的に氷見市の良さを発信してくれる可能性を見出すことができた。高校生である私たちの行動であったからこそ、高校生に影響を与えたことがあったと感じる。しかし、今回で氷見市の良さを十分に伝えられたとは思わない。そのため、より関心をもってもらえるように、高校生で継続的に活動を行っていくよいのではないかと考えている。また、私たちの力だけでは今回の企画は成り立たなかった。場所や物を借り、物品の運搬、お金の管理等、様々なことに多くの人が関わってくださった。周囲の人によって支えられ、そのおかげで活動していくことができた。地域活動として継続するためにも、周囲と連携していく必要性を強く感じている。

この活動を通して、行動することの大切さを学んだ。当初は氷見市の活性化につながればいいな、という思いからこの活動を始めた。しかし、活動をしていく中で、地域の方々も氷見市を盛り上げたいと思っていることを知った。さらに、県外から来て氷見市を盛り上げるための活動をしている方がいることも知った。行動したからこそ、同じ目的をもった方と交流することができ、その方々の思いを聞くことができた。また、地域住民の方と関わる中で、氷見市の良さ再確認することができた。行動をしたことで得られたことは多くあった。この先もどんどん行動していくことで、人生を豊かにしていきたい。

OR合宿を通じて理解したこと、できるようになったことは何ですか？また、それをどのように実践活動に活かしましたか？

私がOR合宿でのフィールドワークを通して理解したことは、「頑張っている人のみならず、頑張っている人の活動の意味を向けられている人にも焦点を当てて考えることが大切である」ということだ。フィールドワークでは、地域活性化や地域の伝統をつなぐために行動を起こしている方々と対話し、その熱い想いをたくさん聞くことができた。しかしそれと同時に、伝統行事の継続の危機にあることや、地域に留まる若者が少なく若者が圧倒的に足りないという厳しい現状も知った。

芦峯ふるさと交流館「まんだら食堂」の佐伯照代さんにお話を伺い、私は大きく心を動かされた。現在、若い人材が圧倒的に足りないことや新型コロナウイルスの影響もあり、芦峯寺の伝統行事を行っていくことが難しくなっていることを知った。人手不足で、年々困難になっていく伝統行事をやめようとする声も上がっていたそうだが、その困難をも顧みずに佐伯さんは、「これからも伝えていきたいから。若い世代につないでいきたいから。だから、大変でも私がやるんだよ。」とおっしゃった。この熱い思いを聞き、私は芦峯寺には絶対的に若い人材が必要だと感じた。リレーと同じように、バトンを渡す人、つまり伝統を伝える人だけでは続かない。バトンを受け取る人、つまり伝統を継承し、つないでいく若い世代がいて初めて続いていく。今までは伝統を伝えるために頑張っている人のことを考えるばかりで、必ず必要である受け取る世代に焦点を当てたことがなかったことに気が付いた。当たり前のことであるが、それに気付けていない自分がいた事にも驚いた。このことから、地域のために、頑張る人はもちろん、頑張る人が誰に向けて活動しているのか、その活動の意味を向けられている人のことまで考えるように意識するようになった。以前よりも広い視点で話を聞くことができるようになったと感じている。

実践活動では、私たちの活動の意味を向けられている人々、つまり高校生に焦点を当てて考えた。もちろん私たちの目的を達成することは大切であるが、目的ばかりを見て、ターゲットの意思を理解しようとしないうちは空回ってしまう。「どのようなイベントにしたら高校生が氷見市に関心を持つだろうか？」「どのような日時であれば高校生が足を運びやすいだろうか？」など、常に高校生の視点を中心として話し合いを進めることでOR合宿で理解したことを活かした。

今回の体験を踏まえ、今後、どのように社会・世界と関わり、より良い人生を過ごしますか？

今回の体験を通して感じた達成感や緊張感、喜びや辛さ、そしてイベントを成功させることができたという事実など、全てが私の一生の宝物となった。

OR合宿で学んだことは、実践活動の中で活かすことももちろん、これから社会や世界と関わる上でも活かすべき重要な学びであった。私が生きていく中で、今後話し合いをする機会は数え切れないほどたくさんあるだろう。今後またイベントを企画することもあるかもしれない。そんな時、私はOR合宿から実践活動まで、体験して学び、成長した自分を振り返ることができる。いつでもどこでも、新しい刺激を受けて殻を破り、大きくなった自分を頼りにして進むことができる。このことは、この体験をした私の特別な宝物である。

宝物となったのは、学び、成長した自分だけではない。もう一つの宝物は、人との繋がりである。私たちの実践活動は、たくさんの人々の協力の上に成り立ったものだ。私たちと共に悩み、考え、アイデアを出して下さった協力者の方々のおかげで、私は前に進むことができた。そして、氷見市の魅力を伝えたいという気持ちを行動に移すことが叶った。私たち高校生だけではできないことがたくさんあり、無力さを感じることもあったが、「私たちに任せろ」と言って力強くサポートして下さいました協力者の方々のおかげで、自分たちの役割に集中し、責任をもって役割を果たせたと思う。温かいコミュニティに包まれ、人として生きるということは、人と繋がるといふことだと改めて感じた。人との繋がりは、何物にも変えることのできない宝物だ。今後の毎日を通していく中でも、既にある繋がりはもちろん、新しい繋がりも大切にしていこう。新しい繋がりをどんどん増やし、新しい価値観に触れ、自分の価値観を広げて視野を広げていきたい。

また、高校生の氷見市への関心度を高めたいという思いをこの体験で行動に移せたことによって、さらに思いが強くなった。身をもって体験した氷見市の温かい素敵なコミュニティを伝える。そして氷見市の「人と繋がることができるようなイベント」を今後企画したいと思った。「氷見ってステキだ」へのきっかけだけでなく、次回は「氷見ってステキだ」をその場で感じられるようなものとした。今後も氷見市とたくさん関わっていきたい。そして、より多くの高校生が氷見市と関わっていきようにしていきたい。たくさんの方が、氷見市とたくさん関わって生活していく、これが私のより良い人生を過ごしていく上での目標である。これからも今回の体験の学びを活かし、氷見市を高校生の活気溢れる市にしていきたい。



所属学校名 富山県立氷見高等学校 2年
学校所在地 〒935-8535 富山県氷見市幸町17番1号
活動者氏名 いけもりゆな
池森夢奈
E-Mail y.dlll4hq19@au.com

1. 地域探究アワードエントリー情報

プレゼン審査希望	有		
エントリー単位	グループ		
グループ審査の班員	氏名①	池森夢奈	氏名③
	氏名②	草山桃葉	氏名④
プレゼン審査希望会場	中部		

2. オリエンテーション合宿及び実践活動の基本情報

OR合宿先	国立立山青少年自然の家
OR合宿参加期間	2021/9/18 ~ 2021/9/20
OR合宿で実施したフィールドワークの内容	立山信仰をはじめとする、地域の歴史や伝統文化、行事等、地域の魅力を守り伝え、活用し、発信すること等に取り組んでおられる方々に講話をいただくとともに体験活動を通してその取組について学んだ。

実践活動期間	2021/10/3 ~ 2021/11/26		
実施体制		主な協力者	協力内容
	所属	氷見市地域おこし協力隊	イベント要項作成・会場設営・経費管理・告知
	氏名	河原朱里	
	所属	富山大学 都市デザイン学部	イベント企画補助・経費管理・告知
	氏名	土谷輝薫	
	所属	富山県立氷見高等学校	会場設営・告知・イベント運営補助
氏名	濱野利空		
協力者総数	21名		

3. 実践活動の記録

(1)総活動日数 全23日

①事前学習・打合せ	19日
②実践活動本番	1日
③事後打合せ・報告会等	3日

(2)主な活動記録

活動日時	区分	活動場所	活動内容
10/3 ~ 10/3	①事前学習・打合せ等	コミュニティスペースヒラク	イベント開催に向けた会議(目的・対象・スケジュール等について)
10/6 ~ 10/14	①事前学習・打合せ等	富山県立氷見高等学校	イベントへの出店依頼、会議(広報・会場レイアウト・アンケート等について)
11/16 ~ 11/16	①事前学習・打合せ等	コミュニティスペース ひまりべ。	会場準備物の運搬(屋台・長机・長椅子・照明等)
11/19 ~ 11/19	②実践活動本番	コミュニティスペース ひまりべ。	Collegareマルシェ(氷見市内飲食店3店舗・市外飲食店1店舗)
11/25 ~ 11/26	③事後打合せ・報告会等	富山県立氷見高等学校	イベント事後報告会・反省会